

「第 18 回ラオス人民民主共和国・口唇口蓋裂無償医療援助活動を行ってきました。」

琉球大学病院では、2001 年からラオス人民民主共和国（以下、ラオス国）で口唇口蓋裂患者の無償医療援助活動を行っています。今回、令和元年 12 月 20 日から 26 日までの 7 日間、ビエンチャン市セタテイラート病院で活動を行ってきましたので、その内容を報告します。

今回は、日本からは琉球大学病院歯科口腔外科の西原一秀准教授、後藤尊広講師、伊波和歌奈と島田彩彩歯科医師臨床研修医、麻酔科から羽賀亜矢子医師と新垣かおる医師、看護部から嘉川すずか看護師、日本口唇口蓋裂協会からの派遣で亀井恵里医学部学生、ボランティアで白鞘愛子歯科衛生士が、中国広州大学からは琉球大学医学部で学位を取得した Kuanghai 先生と Ryan 先生、Kuanghai 先生の同僚の Lee 先生が参加しました。

手術前の診察には患者 26 名がラオス国中から訪れましたが、直前の寒波の影響で感冒症状を伴った患者が多く、残念ながら 14 名のみ手術患者となりました。手術内容は口唇形成術 11 例、口蓋形成術 1 例、口唇修正術 1 例、瘻孔閉鎖術 1 例でした。1 日 5 例の手術日は、手術終了が 20 : 00 頃になりましたが、現地スタッフの協力により医療事故も無く、全て安全に活動を終えることができました。これまでの永年の継続した活動によって現地の医療スタッフの技術・理解は向上し、多くのラオス国の方々の信頼も得られ、とても良いチームワークで手術、治療を行うことができました。今後も多くのラオス患者に医療支援を行えるように準備して活動を継続したいと考えています。

尚、本活動には沖縄電力、徳明会、日本口腔外科学会、日本口唇口蓋協会などのご協力、ご支援を頂いていますこと、心より御礼申し上げます。



Vientiane Times : Lao Press
現地の新聞に活動内容が紹介されました。

